

4. 市立幼稚園で3年保育と預かり時間延長の早期実施をもとめて

- (1) 市立幼稚園存続、充実をもとめる市民の声を市長はどう受けとめたのか
- (2) 幼児教育に市が果たすべき公的責任についての市長の見解は
- (3) 市立幼稚園で3年保育と預かり時間延長を実現する予算の早期具体化を

【答弁】

4. 市立幼稚園で3年保育と預かり延長時間の早期実施をもとめての(1)から(3)につきまして順次お答えいたします。

はじめに、(1)でございますが、「富田林市立幼稚園・保育所のあり方基本方針(素案)」は、本市における市立幼稚園の園児数の減少や、保育所の待機児童問題などを一体的に検討し、今後の市の進めるべき方針策定に向けてお示しさせていただきました。

パブリックコメントの提出数は606通で1,200件以上のご意見を頂戴いたしました。様々なご意見を頂戴する中で、園児が減少する状況で園を集約することは理解できるとのご意見もありましたが、最も多いご意見は、廃園の考えをお示ししている4園の存続を求めるご意見でございます。

また、素案の中で廃止の考えをお示ししている4園の地域から最終集計で、1万8千649筆におよぶ廃園反対などの署名を受理しております。

各地域での説明会は延べ19回で445人の方にご参加いただき、廃止をお示した4園の地域では、廃園反対、まずは3年保育と預かり時間延長を希望するご意見を多く頂戴いたしました。また、廃園となれば遠くの園まで通うこととなり送迎のためのバスの運行を希望するご意見も多く頂戴いたしました。存続をお示した6園の地域では、保育室のエアコン設置、給食の実施、長期休業中も含めての預かり保育の実施などを希望するご意見を頂戴いたしました。

さらに、昨年の12月議会におきまして、「富田林市立幼稚園・保育所のあり方基本方針（素案）における市立新堂幼稚園の廃園に反対する請願書」及び「富田林市立幼稚園（伏山台・川西・彼方）の3園の廃園に反対する請願書」が賛成多数で採択されました。これらのご意見につきましては、市としましても重く受け止めております。

次に、（2）についてお答えいたします。

市立幼稚園の役割としましては、障がいのある子どもを含めたすべての子どもたちに等しく集団による教育を保障することです。また、「身近な自然や生き物に愛情を持って関わること」や「絵本やお話に親しむ中で、経験や考えを自分の言葉で伝え合うこと」など小学校入学までにつけておきたい力を育むことがあります。これらの役割を果たすことができるよう、市立幼稚園を適切に配置し運営することが市の役割であると考えております。

最後に、（3）でございますが、市民の方や議会のご意見を踏まえまして、市の新しい体制のもと、富田林市立幼稚園・保育所のあり方基本方針の素案につきましては、ゼロベースで見直すことといたしました。

これまでの経緯につきましては、今後、各幼稚園で説明会を開くなど、丁寧にご説明してまいりたいと考えております。またその際には、新案の構築に向けて保護者、地域の皆様のご意見を伺いたいと考えております。

3年保育と預かり時間延長については、市立幼稚園における課題であるとの認識のもと、今後、できるだけ早い時期に新たな案をお示しし、基本方針を策定したのちに各事業の予算化を図ってまいりたいと考えております。